

2021年11月30日

ガーナ贈呈式 報告書

ガーナパラリンピック委員会へ 20 台の子ども用車椅子を送る機会を得ました。タイの RICD に 175 台を送った時にお世話になった「NPO 法人希望の車いす」の谷理事長からの紹介です。

2021年8月に開催された東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の秋吉 ファビオ氏とガーナパラリンピックチーム事務総長 Peter Adjei 氏が東京大会で知り合いとなり「ガーナのために車椅子を贈ることはできないか」と相談し、「NPO 法人希望の車いす」をインターネットで見つけます。谷理事長はガーナに車椅子を贈ることを快諾します。ガーナパラリンピックチーム事務総長 Peter Adjei 氏はパラリンピック選手を目指している子どもたちにも車椅子を贈ることはできないだろうかと谷理事長に相談し、当会に相談が舞い込みました。森田会長は、贈呈先がガーナの国の機関であれば贈った車椅子も大切に扱われるだろうと子ども用車椅子提供の要請を受け入れました。

このようにして、2020パラリンピックの関係者の強い思いで始まったプロジェクトが実現しました。

ガーナへの贈呈式は、「NPO 法人希望の車いす」が拠点としている「聖書キリスト教会東京教会」（東京都練馬区豊玉北）で11月30日に行われました。

贈呈式は、アフリカのガーナと ZOOM で接続して教会の会議室で行いました。ガーナからの出席者は、ガーナパラリンピックチーム 事務総長 Peter Adjei 氏とアドアージイリ市（ガーナ東部の都市）の義肢装具訓練学校の校長先生であり、ガーナパラリンピック委員会の役員でもある Henry Larbi 氏です。東京教会での出席者は、在日ガーナ大使館の Nana Kusi Magrabi 氏、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の秋吉 ファビオ氏、同委員会の小林氏、NPO 法人希望の車いすの谷理事長、当会の森田会長、今回の会議室を提供してくれた聖書キリスト教会東京教会の尾山キャシー牧師、他の皆さんです。

贈呈式は、秋吉 ファビオ氏の司会進行及び通訳で始まりました。

【ガーナからの挨拶】

ZOOM で参加のガーナパラリンピックチーム

事務総長 Peter Adjei 氏です（右の写真）

私は、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の秋吉ファビオ氏と東京で出会い、友人となります。そこで「障害のある人たちに外に出られるようするために何かできないか」と彼と話し合い、車椅子を送ることを思いつきます。



秋吉ファビオ氏が谷理事長に車椅子の提供を呼び掛け、谷理事長が当会の森田会長に子ども用車いすの提供を呼び掛けてくれて実現しました。その陰にはガーナ大使館の Nana Kusi Magrabi 氏の様々なサポートがありました。このようにしてパラリンピックをきっかけに大人用車椅子 20 台、子ども用車椅子 20 台がガーナに贈られることとなりました。今回の贈呈に対して心から感謝します。

【大使館からの挨拶】

秋吉ファビオ氏から今回の贈呈式に大使館から人を派遣してほしいとの要請に対して、ガーナ駐日大使は快諾して私の派遣を決定しました。

大使館を代表して今回の車椅子贈呈に対してお礼を申し上げます。今回の贈呈を心より感謝申し上げます。車椅子は障害のある人々にとって人生を大きく変えるものであり、今回日本の皆さんから贈ってもらう車椅子はガーナの障害を持つ人々にとって非常に貴重なものです。これがガーナの人たちの新しい生活のスタートとなることを期待します。

今日は Giving Tuesday（国際的な「寄付の日」）ということで図らずもこの贈呈式にふさわしい日となりました。

今後、何か困ったことがあれば大使館として相談にのります。いつでも声をおかけください。本当に有難うございました。

【森田会長からの挨拶】

まずもって、当会にこの話をつないでくれた谷理事長にお礼を申し上げます。そして、当会からの子ども用車椅子を受け取るガーナの皆さんには次の2点を十分に配慮してもらいたいと思います。

「子どもの体にしっかりと合った車椅子を供与して欲しい」

「長く車椅子を使ってもらうためにガーナでのメンテナンスをしっかりとやって欲しい」
上記について今後のガーナの皆さんの活動を注視していきたいと思います。

【谷理事長からの挨拶】

当NPOのこだわりは「新品同様」に車椅子を磨き上げて、必要な海外の人々に贈る活動をしています。今回、秋吉ファビオ氏から熱心な車椅子提供の要請を受けて、このように森田会長とともに車椅子をガーナに贈ることができて大変うれしく思います。

今後、ガーナの人たちをお願いしたいことは、これらの車椅子がどのような人たちに届けられ、どのように使われているのかを教えてください。そうした情報は、活動を共に行う仲間たちや支援をしてくれる人たちと共有して「ガーナに送ってよかった」と喜びを分かち合いたいと思います。ぜひとも情報をお寄せください。

【Henry Larbi 氏 ガーナからの ZOOM 参加】

アドアージリ市（ガーナ東部の都市）の義肢装具訓練学校の校長先生であり、ガーナパラリンピック委員会の役員でもある Henry Larbi 氏から下記の挨拶がありました。

「車椅子が体にしっかりとフィットするようなサポートをします。今回の目的としてパラスポーツの選手を増やしていくとことがあります。今回の車椅子贈呈は必ずパラ選手増加につながると思います。そのために今後は、ガーナパラリンピック委員会と連携しながらサポートをしていきます。また、体に障害がある人たちに車椅子が届けられることでその人たちが社会に出ていけることにもつながると思います。車椅子のメンテナンスがしっかりとできるようにサポートもします。」

【聖書キリスト教会 尾山キャシー牧師】

図らずも今日は「Giving Tuesday」という贈呈にふさわしい日に車椅子がガーナに向けて送られることは大変うれしく思います。

日本語に「健常者」という言葉がありますが、どこに健常者とそうでない人との境界線があるのでしょうか。見方を変えれば、すべての人が何らかのハンディキャップを持っていると言えます。例えば眼鏡をかけている人や、外国で暮らしていて言葉が不自由な人達もハンディキャップを抱えていると言えるでしょう。そうした思いを持ちながらより大きなハンディキャップがある人々にこのようなプレゼントをすることは大切なことだと思います。

以 上



贈呈式を終えて、関係者全員での記念撮影

左から、土田理事（希望の車いす）、桑山ボランティア、桑山理事（以上、海外に子ども用車椅子を送る会）、谷理事長、森田会長、尾山キャシー牧師、ガーナ大使館 Nana Kusi Magrabi 氏、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会 秋吉ファビオ氏、同委員会 小林氏